茨城新聞　2014年(平成26年)1月4日　土曜日

寄稿

原発の責任ある将来を

藤田幸久

昨年12月13日にフィンランドのオンカロを視察しました。小泉純一郎元首相が訪問した世界で唯一の核廃棄物の最終処分場です。地下420㍍の坑道に酸素ボンベなどを携帯して入りました。ここの2㌔㎡四方にいわゆる核のごみを埋め込み、10万年間密閉する計画です。

地震がなく岩盤の国フィンランドだから可能では済まされない、日本が学ぶべき以下の点がありました。①地盤・環境調査と地元の支持、政府によるサイト決定と議会承認、地価特性調査と建設許可という30年にわたる緻密なプロセス②核廃棄物はそれを出した企業が処分するという原則や、廃棄物の再処理や輸出入の禁止の決定③